ごあいさつ

土佐教育研究会
会長　藤田　由紀子

土佐教育研究会創立５０周年を迎えるにあたり、一言御挨拶を申し上げます。

昭和４７年に創立された土佐教育研究会は、５０年の間数多くの研究実践を発表するとともに高知県の教育をリードする優れた数多の実践研究者を輩出してまいりました。改めて、先輩方が教育の理想を追求しながら築き上げてきた歴史と伝統の重みを感じています。そして、その伝統と志を確かに継承するとともに、新たな歴史を創造することが、私達に課せられた務めであると考えています。

私達は、今大きな変革の中にいます。

昨年度、小学校新学習指導要領が全面実施となりました。それに続き、本年度は中学校、来年度は高等学校でも新たな教育が始まります。コンテンツベースの教育からコンピテシーベースの教育への転換が求められています。また、小学校「外国語」の教科化や「プログラミング教育」の導入など新たな学びもスタートしています。

そして、新型コロナウイルス感染拡大による生活様式の変化によって学校生活も様変わりしました。これまで当たり前であった様々な行事が学校のルールが見直されるとともに、より柔軟な対応が求められるようになりました。

また、コロナ感染拡大を機に急速に進展したGIGAスクール構想によって、学校に１人１台のタブレット端末が導入され「個別最適化された学び方」やデジタルを活用した「協働的な学び」のスタイルが実現しようとしています。私たちは、社会のありようとともに変わる教育の変革にフレキシブルに対応していかなくてはなりません。

さて、今回創立５０周年を記念して開催されます記念講演会は、「みんなの特別支援教育～通常学級で取り組む事～」と題して、関西国際大学教育学部学部長、中尾繁樹教授にご講演いただきます。「ユニバーサルデザイン」「インクルーシブ教育」は学校現場の喫緊の課題です。また、創立記念講演会と同時開催されます第１２回土佐教育研究大会で５支部から提案されます実践研究には「国際バカロレア初等教育プログラム」「組織改革」「教科担任制」「性の多様性」「総合的な学習」と今まさに旬のテーマが取り上げられています。このように本会から発信される提案、講演どれをとっても、この変革の時に、明日を生きる子ども達の成長と幸せを目指す私達にとって指針となるものばかりであると自負しております。これからも、教育の本質を見失うことなく、会員の皆様とともに具体的な取り組みを着実に積み上げていく土佐研であり続けたいと思います。

最後になりましたが、創立５０周年にあたりご祝辞をいただきました、高知県教育委員会教育長 伊藤博明様、高知県市町村教育委員会連合会会長 竹内信人様に厚く御礼申し上げます。また、高知県教育委員会、高知県市町村教育委員会連合会、高知県小中学校長会、高知県小中学校教頭会、（公財）日本教育公務員弘済会高知支部、高知県文教協会はじめ関係諸機関の深いご理解とご支援に改めまして感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。

祝　　辞

祝　　辞

高知県教育長　伊藤　博明

土佐教育研究会創立５０周年を迎えるにあたり、一言お喜びを申し上げます。

まず、土佐教育研究会におかれましては、５０年の長きにわたり、子どもたちの確かな成長と幸せを願い、変化の激しい社会に対応する能力の育成を目指した教育実践を積み重ねるなど、本県教員の資質・指導力の向上や教育課題の解決、教育の振興に大きく貢献いただいておりますことに深く敬意を表します。また、近年、全国学力・学習状況調査等において改善傾向が見られますのは、先生方の熱心な取組の賜と感謝しております。

さて、私達は、昨年度以降、大きな変革を迎えています。１つめは、皆様もご承知のとおり、新学習指導要領が、小学校は昨年度から、中学校は今年度から全面実施となり、内容を教える授業から、資質・能力を育む授業へと転換を図ることが求められています。また、小学校では「外国語」の教科化や、「プログラミング教育」の必修化など、国際社会の動向を見据えた新たな学びがスタートし、中学校では、それを受けての学びの高度化が求められています。

２つめは、新型コロナウイルス感染症拡大による生活様式の変化です。それに伴い学校において急速に進展してきたのが、１人１台端末を活用した「新しい学習スタイル」です。

県教育委員会におきましても、令和２年度に改訂した「第２期教育等の振興に関する施策の大綱」及び「第３期高知県教育振興基本計画」において、これまで取り組んできた「チーム学校の推進」や、「厳しい環境にある子どもへの支援や多様性に応じた教育の充実」などに加え、新たに「デジタル社会に向けた教育の推進」を基本方針の１つに掲げました。特に、「学校の新しい学習スタイル」の構築では、授業や放課後学習等でも活用できるデジタル教材を備えた県独自の学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」の運用を開始し、個々の学ぶ力を引き出しながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指しています。

貴研究会におかれましては、「主体的・創造的な教育」を研究テーマとし、確かな実践を積み重ねて、その成果を常に発信していただいております。県教育委員会としましては、本県教育のさらなる振興が図られるよう、土佐教育研究会の皆様方との連携・協働を一層深めてまいりたいと考えております。

今後とも、貴研究会の益々のご発展と、会員の皆様方のさらなるご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

土佐教育研究会創立５０周年　お祝いの言葉

高知県市町村教育委員会連合会
会　長　　竹　内　　信　人

土佐教育研究会創立５０周年、誠におめでとうございます。

貴会は１９７２年創立以来、半世紀もの長きにわたり、県内最大の教育研究団体として、高知県の教育の充実・発展に多大な貢献をしてこられました。各教科・領域等における理論的・実践的な研究により、県内各小中学校の教育力、指導力の向上に寄与していただくとともに、全国大会、中四国大会、四国大会、県大会などを開催し、先進的で優れた教育実践を発表、交流していただきました。土佐教育研究会のこうした地道で熱心な活動により、本県の教育の質的向上が図られているのだと思います。高知県市町村教育委員会連合会といたしまして、貴会のこれまでの営みに対し感謝と敬意を表しますとともに、創立５０周年を心からお喜び申し上げます。

さて、高知県教育委員会は、令和元年度までの４年間を期間とする第１期の教育大綱及び第２期の高知県教育振興基本計画において、「学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち」、「郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材」の育成という基本理念のもと、様々な取組を進めてきました。

土佐教育研究会会員をはじめとする教職員の皆様の取組などによって、知の分野では、全国学力学習状況調査の結果において、小学校では引き続き全国上位に位置し、中学校も全国平均との差を縮めており、徳の分野では、道徳性等に関する調査の結果が向上し、体の分野でも、体力・運動能力が全国水準まで到達するなどの成果が出ています。

一方、本県の不登校の状況は、いまだ全国よりも高い水準にとどまっているなど、依然として対応すべき課題も残っています。また、Society5.0 というような、技術革新が急速に進む中において、教育の果たす役割が極めて重要となっています。

こうした中、令和２年３月、第２期の教育大綱及び第３期の高知県教育振興基本計画が策定され、チーム学校の推進など、これまで成果をあげてきた取組を一層充実させるとともに、「デジタル社会に向けた教育の推進」を新たな柱として掲げ、６つの基本方針のもと、取組を進めていくこととなりました。これらは、子どもたちにしっかりとした学力をつけて進路を保障したい、人とのかかわりの中で自立や社会生活のために必要な力を身に付けさせたいとの願いをもって、諸先輩方から脈々と受け継がれてきた取組と多くは共通する取組であり、一方で、デジタル社会に向けた教育の推進や安心・安全な教育基盤の確保など、今日的な教育ニーズに対応した取組も充実していかなければならないと考えています。

このような折、本県の教育研究団体のリーダーである土佐教育研究会への期待は、ますます大きくなっているものと考えます。貴会の取組が、本県の教育力向上の重要な役割を担っているとの自負と誇りを持っていただき、一層の組織の拡大と取組の充実を図っていただきたいと存じます。今後とも、本県教育の充実のためにご尽力いただきますようよろしくお願いいたします。

結びに、会員の皆様のご健勝とご活躍、そして土佐教育研究会のますますのご発展を心から祈念申し上げまして、高知県市町村教育委員会連合会としましてのお祝いの言葉といたします。

歴　代　会　長　より

回 想「土 佐 研」

第１７代会長　別 當 尚 史

土佐教育研究会創立５０周年，誠におめでとうございます。

半世紀もの長きに渡って，高知県の自主的，民主的な研究活動を支え育ててこられた全ての会員の皆様に，心より敬意と感謝を申し上げます。

私が土佐教育研究会（土佐研）に入会したのは，小学校教員に採用された翌年の昭和５７年だと記憶しています。その当時は，高知市教育研究会で所属部会の研究部員になったら自動的に土佐教育研究会の会員になるような雰囲気でしたので，私も同世代の仲間と共に算数・数学部会の一員となりました。「日々の授業にさえ手こずっているような自分が，こんな大きな規模の組織に入ってもいいのだろうか」という不安はあったのですが，算数・数学部会には高知市の仲間もたくさんいましたし，先輩の先生方から授業について手取り足取り教えていただく機会もありましたので，続けて研究活動に参加しました。

今振り返ると，その時やめずに研究活動を続けてきたからこそ，教師が一番大切にしなければならない「授業」や「学級経営」の力を向上させることができたと思っています。なかでも土佐教育研究会では，高知市の先生方だけではなく東部の安芸や西部の幡多の先生方とも一緒に研修する機会をもてたことが大きいと思います。ところ変われば，一単位時間の授業であっても教材解釈や扱う学習材が違っていたり，課題とする内容が違ったりもします。それが一単元の授業構成ともなると，授業者のねらいや対象児童の実態等によって多種多様な迫り方があることも学ばせていただきました。また，県大会や中・四国大会の研究授業や実践発表の場に立たせてもらうことで，自分なりに工夫した授業をする時の緊張感（少々のワクワク感も含む）や，提案事項の効果等について参加者から意見をもらう醍醐味？も味わわせていただきました。

その頃は，若年研修や年次研修などの公的な研修があまり多くなかったので，子どもたちの前に立つ担任としての自信をつけてくれたのは、「土佐教育研究会」や「高知市教育研究会」に鍛えていただいたおかげだと感謝しています。

教員生活も折り返し地点を過ぎた頃に先輩からの声がけもあり，土佐研本部の事務局長を担当しました。そして，退職前の４年間会長を務めました。その時に，事務局長や研究部長らと頭を悩ませたのが会員数の確保です。学校現場の多忙化や公的な研修の増加等によって，土佐教育研究会が主催する研究大会への先生方の参加が難しくなるに従って会員数も減少してきました。この傾向を持ち直すのは一筋縄ではいかないと思います。けれども，自分自身の課題を追究することができる自主的・民主的な研究組織であり，四国や全国ともつながっている唯一の研究組織「土佐教育研究会」の存在は絶対に衰退させてはならないと強く思っています。土佐の教育力を高めていくために，先生方には土佐研の研究活動を自己研鑽の場として活用してください。

『土佐研よ，永遠なれ！！』

土佐研創立５０周年に寄せて

第１８代会長　中田　正康

土佐教育研究会の創立５０周年をこころよりお祝い申し上げます。

私が、土佐研の会長を務めたのは平成２９年度と３０年度の２年間でした。僅か２年間ですが、この２年の間に社会は激変しました。土佐研においても、新型コロナウィルス感染症の拡大に伴い、これまで経験したことのない活動への大きな影響を受けたのではないかと想像します。学校においても、教育活動に多くの困難が伴ったことだと思います。子どもの安全・安心を第一としながら、日々の教育活動をどう保障し、保護者との連携をどう継続していくのか、少し想いを巡らしてみるだけでもその困難は想像に難くありません。

しかし、この１年間で、重ねられた努力や創意工夫は、必ず、今後の教育の大きな糧となるのではないかと信じております。

さて、私が、会長を務めていた２年間について振り返ってみますと、土佐研のこれまでの活動の継承・発展をめざす一方で、直面する課題の解決に向けて取組んだ２年間でありました。

特に大きな課題となったのが、会員の減少と活動予算の確保の問題でした。

現在も続く大量退職の時期を迎え、新たな会員加入がそれに追いついていかない状態があり、新規の会員加入に向けて役員一同知恵を出し合いました。活動予算の確保については、会費等が減少する中で、これまでの研究活動の成果を損なうことのないように、いかに、経費の削減ができるのかについて検討を重ねました。会報の印刷の代わりに、ホームページでの閲覧にしたのも、そうした対応の一環でした。ホームページを活用することで、経費の削減と多くの方々への情報提供が可能となりました。

こうした課題に向き合いながら、度重なる役員会で多くの方々にご意見をいただく中で、少しずつ活路が開けてきた状況でした。

しかし、すべての課題が解決したわけではありません。今後も、課題解決に向けての取組は続くのだと思います。

土佐教育研究会は、１９７２年の発足以来、子どもたちの成長と幸福を願い、高知県レベルで唯一の教科・領域を網羅した民間教育研究団体として、主体的・創造的な教育を推進してきました。全県的な研究や全国レベルの研究は、土佐研の重要な役割の一つだと思います。

今後さらに、「主体的・創造的な教育を求めて」、子どもたちの幸せのために、多くの教育関係者のみなさまが土佐研に集われることを願っています。

最後に、役員のみなさま、会員のみなさま、高知県教育委員会はじめ、関係機関のみなさま、多くの方々にご支援いただきましたことに、あらためて感謝申し上げます。